

# 北海道建築士

HOKKAIDO KENCHIKUSHI 2019.12.No268

12月号

## 目次

第62回建築士会全国大会  
「北海道大会」を終えて……………1

## 特集

第62回全国大会「北海道大会」  
・PHOTO GALLERY……………2  
・実行委員会・運営者名簿……………7  
・各部会報告、参加者人数……………8  
・協議会、フォーラム……………13

information……………14

URL <http://www.h-ab.com/>



リクロス  
**Re+** みらい 明日のまちに輝きを—

## 第62回建築士会全国大会「北海道大会」を終えて

大会実行委員長（函館支部長） 山内 一 男

### — 謝意 —

新しい元号での全国大会、実行委員長の役を仰せつかり、あっという間の4年でした。大会運営がスムーズに運び、大きな事故もなく、今後の全国大会のお手本となる大会であったと思っています。

函館での3年にわたる実行委員会の開催に時間を費やしてくれた会員、函館支部会員、大会をサポートしてくれた各支部会員、賛助会会員の力添えと協力で改めて敬意と感謝を申し上げます。

### — 参加者は来賓を含めて約3000名 —

9月19日受取荷物の確認と翌日の大会開催準備に向けた仕分けから始まった。20日は設営準備作業と函館市への表敬訪問、午後の記者発表を終え大会当日をむかえた。大会当日、天気は雲一つない快晴、受付に人が多数集まり会場は人であふれていた。

### — 講演・式典 —

北海道東神楽町出身の建築家・藤本壮介氏は「自然と建築の間」というタイトルで講演された。

建築を考える時のキーワードとして、手がけた作品を通して話され、自然と人工物の融合には、「自然は囲まれているが自由に行き来する、守られている空間」を、人工物の建築にも居心地の良い空間作りからと話された。

式典は会場を参加者が埋め、来賓から一昨年の胆振東部地震や地震後の建築士会の取組に感謝が話された。鈴木知事は厚真町仮設住宅において、青年部が住み手に寄り添う住宅改善作業にお礼の言葉があり、全国に北海道建築士会の活動が知らされた。

自分たちのまちに輝きを持ち続けるため、建築士の活動は永遠に続く、メッセージ性のある式典であったと感じています。



会場 函館アリーナ



記念講演 藤本壮介氏



受付



大会式典



青年委員会セッション①



青年委員会セッション②



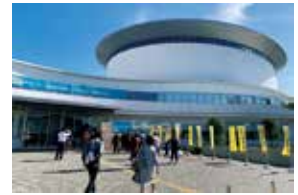
青年委員会セッション③



女性委員会セッション①



景観・街中（空き家）まちづくりセッション①



会場の函館アリーナ



女性委員会セッション②



景観・街中（空き家）まちづくりセッション②



入口メインサイン



女性委員会セッション③



景観・街中（空き家）まちづくりセッション③



1Fホール  
混み合っている様子



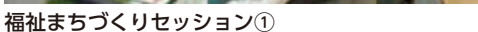
福祉まちづくりセッション①



福祉まちづくりセッション②



次回開催地PRブース  
広島建築士会



福祉まちづくりセッション③

G  
A  
L  
L  
E  
R  
Y



防災まちづくりセッション①



防災まちづくりセッション②



防災まちづくりセッション③

P  
H



企業出展ブース

O  
T



屋外ともえ広場  
昼食会場

O



屋外ともえ広場  
屋台村

開催日  
2019.  
9.21-22



2Fテラス  
昼食会場



環境部会セッション①



情報部会セッション①



環境部会セッション②



情報部会セッション②



環境部会セッション③



情報部会セッション③



歴史まちづくりセッション/  
第7回ヘリテージマネージャー大会①



歴史まちづくりセッション/  
第7回ヘリテージマネージャー大会②



歴史まちづくりセッション/  
第7回ヘリテージマネージャー大会③



記念講演 (藤本壮介氏)



大会式典①  
開催地会長挨拶 (高野壽世 北海道建築士会会長)



大会式典②  
主催者挨拶 (三井所清典 日本建築士会連合会会長)



大会式典③  
来賓挨拶 (鈴木直道 北海道知事)



大会式典④  
来賓挨拶 (工藤壽樹 函館市長)



大会式典会場の様子



大会式典⑤  
会長表彰者



オープニングセレモニー①



オープニングセレモニー②  
(江差追分)



オープニングセレモニー③  
(アイヌ古式舞踊)



大会式典⑥  
大会旗引継 (北海道から広島へ)



大会式典⑦  
次期開催地会長挨拶



大交流会①  
談笑の様子



大交流会②  
函館名物イカ踊り



函館夜景バスツアー



地域交流見学会（エクスカーション）  
Aコース 函館の歴史的建造物街並見学①



地域交流見学会（エクスカーション）  
Aコース 函館の歴史的建造物街並見学②



地域交流見学会（エクスカーション）  
Aコース 函館の歴史的建造物街並見学③



地域交流見学会（エクスカーション）  
Eコース 縄文文化とニセコ・小樽の街並み見学①



地域交流見学会（エクスカーション）  
Bコース 函館の重要文化財見学①



地域交流見学会（エクスカーション）  
Cコース 函館の近代建築見学①



地域交流見学会（エクスカーション）  
Eコース 縄文文化とニセコ・小樽の街並み見学②



地域交流見学会（エクスカーション）  
Bコース 函館の重要文化財見学②



地域交流見学会（エクスカーション）  
Cコース 函館の近代建築見学②



地域交流見学会（エクスカーション）  
Eコース 縄文文化とニセコ・小樽の街並み見学③



地域交流見学会（エクスカーション）  
Bコース 函館の重要文化財見学③



地域交流見学会（エクスカーション）  
Cコース 函館の近代建築見学③



地域交流見学会（エクスカーション）  
Eコース 縄文文化とニセコ・小樽の街並み見学④



地域交流見学会（エクスカーション）  
Dコース 日本遺産「江差いにしえ街道」散策②



地域交流見学会（エクスカーション）  
Dコース 日本遺産「江差いにしえ街道」散策③



地域交流見学会（エクスカーション）  
Dコース 日本遺産「江差いにしえ街道」散策①

PHOTO

第62回  
全国大会  
「北海道大会」

開催日  
2019.  
9.21-22



「北海道大会」ポスター



前日準備エントランス



大会PR市電



スタッフ全体会議



スタッフ全体会議（前日）



大会受付



スタッフ部会会議



トラブル発生



弁当配布



スタッフ最終確認



号外



大交流会



大交流会おもてなし



エクスカーションスタッフ

# 第62回建築士会全国大会「北海道大会」実行委員会・運営者名簿

このたびの大会開催にあたり、皆様、誠にありがとうございました。心から感謝申し上げます。

全国大会実行委員会		大会運営スタッフ（会員）							
委員長	山内 一男	札幌	池田 浩司	函館	久保 力男	函館	松野 秀樹	小樽	佐々木 克幸
副委員長	牛田 健一	札幌	井上 勝己	函館	小松 明弘	函館	三木 紀一	小樽	鈴木 雄也
副委員長	山田 良彦	札幌	小笠原 肇	函館	小松 幸夫	函館	水田 純一	小樽	中川 淳二
副委員長	西岡 誠	札幌	片岡 哲二	函館	小柳 博之	函館	三橋 悟	小樽	早川 陽子
副委員長	田嶋 英人	札幌	川島 亮	函館	是川 貴志	函館	向平 淳一	小樽	林 昌宏
副委員長	針ヶ谷 拓己	札幌	菊地 義紀	函館	近藤 良一	函館	向山 良治	小樽	吉田 幹
副委員長	本間 恵美	札幌	後藤 朋恵	函館	境 邦宙	函館	村崎 勇策	後志	瀬尾 正宣
副委員長	中澤 篤	札幌	小林 大介	函館	佐々木 淳	函館	村田 徹也	岩内	白戸 正宏
部会長	大原 公子	札幌	小林 祐司	函館	佐々木 慎治	函館	村山 弘志	岩内	藪 直人
部会長	原田 徹	札幌	酒井 隆幸	函館	佐々木 秀隆	函館	目黒 さおり	室蘭	稲場 めぐみ
部会長	小町 美穂	札幌	重永 真孝	函館	佐々木 竜矢	函館	森本 弘志	室蘭	小松 憲一
部会長	工藤 誠	札幌	柴山 立行	函館	定永 忠敏	函館	藪下 明	室蘭	笹谷 雅紀
部会長	斎藤 勝哉	札幌	鈴木 彩恵	函館	佐藤 博之	函館	山上 和茂	室蘭	鈴木 稔
部会長	藤島 孝一	札幌	高原 奈々絵	函館	澤口 悦郎	函館	山川 修人	室蘭	山下 哲治
部会長	伊藤 隆英	札幌	永井 裕史	函館	杉崎 良明	函館	山口 敬介	室蘭	吉田 幸恵
部会長	金山 仁志	札幌	永井 雅規	函館	杉村 誠一郎	函館	山田 妙子	苫小牧	熊谷 智
部会長	朝倉 友和	札幌	長沼 利真	函館	外崎 剛	函館	山本 啓太	苫小牧	佐藤 芳則
部会長	工藤 美智子	札幌	西田 康人	函館	高橋 淳	函館	山本 真也	苫小牧	中原 光晴
部会長	林 裕馬	札幌	林 甲多	函館	高橋 一正	函館	山本 紘彰	日高	亀田 誠
部会長	関川 修司	札幌	東 道尾	函館	高橋 幸司	函館	吉川 智行	日高	三嶋 克昭
部会長	清水 浩史	札幌	宮川 耕介	函館	高橋 利明	函館	吉田 真規	日高	森 勝利
部会長	佐藤 久	札幌	森田 ゆう子	函館	滝下 翼	函館	若狭 成行	日高	山下 聡
部会委員	末吉 勇介	札幌	柳山 美保子	函館	竹内 顕	函館	渡辺 友子	空知	永坂 純一
部会委員	岩崎 美乃	札幌	吉田 徹	函館	谷本 泰隆	檜山	阿部 安	留萌	大平 健二
運営統括者	内海 純一	千歳	伊藤 洋平	函館	田畑 昌彦	檜山	大古 正平	旭川	石塚 規行
運営統括者	松本 純	千歳	丹波 泰哉	函館	槌本 卓二	檜山	岡本 豊	旭川	菟川 正人
運営統括者	山田 直登	千歳	山川 力	函館	富樫 雅行	檜山	尾野 輪司	士別	柏倉 晶憲
運営統括者	原 一彦	恵庭	今井 正道	函館	百目木 奈織美	檜山	鹿野 正俊	上富良野	島田 久
運営統括者	杉山 友和	恵庭	境谷 香奈	函館	中川 かおり	檜山	加向 秀雄	上富良野	高松 徹
運営統括者	川原 昌彦	恵庭	屋仲 めぐみ	函館	長倉 邦春	檜山	川端 英司	上富良野	土田 浩貴
運営統括者	安達 あけみ	函館	飯田 健太	函館	中山 守	檜山	熊沢 茂樹	名寄	遠藤 光博
運営統括者	往田 協子	函館	石栗 真樹	函館	成田 佳孝	檜山	佐野 寿樹	名寄	北野 学
事務局(本部)	石川 淳一	函館	板垣 憲一	函館	二本柳 慶一	檜山	瀬川 悟	十勝	飯高 清嘉
事務局(本部)	秋吉 利香	函館	稲野辺 豊	函館	野口 雄平	檜山	曾我 玲香	釧路	須藤 志津子
事務局(本部)	浦上 美穂	函館	井上 聡	函館	能戸 彰	檜山	高橋 真一	釧路	前田 繁
事務局(本部)	岡本 友美	函館	大杉 幸政	函館	箱田 良一	檜山	田畑 裕士	中標津	伊井 崇史
事務局(支部)	渡辺 修司	函館	大武 武博	函館	橋本 雪乃	檜山	成田 司	中標津	村山 賢司
事務局(支部)	谷内 正則	函館	大槌 裕介	函館	林 裕子	檜山	西峰 鉄三	網走	石川 俊樹
事務局(支部)	鹿内 多佳子	函館	岡 忠善	函館	原 さくら	檜山	増川 学	網走	立花 智亜喜
		函館	小川 聡	函館	原田 拓未	檜山	松本 皓太	網走	飛澤 隆洋
		函館	葛西 克哉	函館	原田 雅文	檜山	三瀬 一幸	北見	佐々木 強志
		函館	加藤 邦基	函館	坂東 正広	檜山	溝口 利幸	北見	高橋 真美
		函館	金山 留美子	函館	樋口 和代	檜山	室井 恵美子	紋別	鈴木 光彦
		函館	川岸 琢	函館	平井 等	檜山	室井 正行		
		函館	川嶋 紀夫	函館	平沼 冠三	檜山	若浜 崇		
		函館	川村 真人	函館	平野 法明	小樽	小澤 大地		
		函館	川本 昭	函館	平山 功	小樽	金谷 祐		
		函館	木下 一廣	函館	藤田 楊子	小樽	木野田 圭祐		
		函館	工藤 悟	函館	藤原 麻美	小樽	近藤 修弘		
		函館	工藤 真一	函館	本間 貴美広	小樽	近藤 真人		

## 総務・財務部会

### 記憶に残る全国大会「北海道大会」

大会事務局

渡辺 修司 (函館支部)

久しぶりの地方都市での開催となった全国大会、4年前に函館開催が決定したので早速、金沢、大分、京都、さいたま大会に参加しました。大会参加は第50回「帯広大会」、第36回「旭川大会」、第30回「盛岡大会」と、私の建築士会活動の原点となった第20回「東京大会」です。初めて参加した全国大会で建築士の使命を自覚したことを今でも鮮明に覚えています。

全国大会の楽しみは、開催地の街や建物を見て歩き、仲間と交流ができ、自分の仕事に生かせることです。士会活動は自ら積極的に関わることで見聞を広げ、自分磨きができる魅力があります。そんな魅力ある大会をめざして北海道(函館)らしさに拘ってみました。評価はどうだったのでしょうか。

事務局の一員として実行委員会に携わることになりましたが、石

川事務局長はじめ本部事務局員は、各部会から上がってくる様々な課題、問題等の調整のため主催者の連合会、国、道、自治体などとのやり取りが多く大変でした。この大会を通して、建築士会が多くの機関や団体との繋がりで存在しているのか再認識できました。来賓接遇で苦勞された大原さん大変ご苦勞様でした。

旭川大会や帯広大会の時は、全道で広告協賛「寄付集め」で大変でしたが、現在は寄付集めなしで運営することになっています。今回は、自主財源の他に地元自治体(北海道と函館市)からコンベンション開催補助金がいただけることになりました。

函館には、大規模コンベンション施設がなく、あてにしていた隣接する市民会館が丁度耐震改修工事のため使用できず、会場が分散したことは残念でした。地元函館支部は、多くの会員に呼び掛けた結果、108名が運営スタッフとして献身的にお手伝いをしてくれ

たことが大変うれしい成果でした。特に、賛助会員の皆様にはお世話になり感謝しています。そして、原田指揮官のもと、全道スタッフによる「大会袋詰め」は予定時間内に見事終了、皆さん大変お疲れさまでした。また、準備段階から全体を統括、スムーズな大会運営を指揮した山田さん、牛田さん、苦情処理も含め大変ご苦勞様でした。

今大会では大交流会、夜景ツアー、エクスカージョンの参加者比率が高く、「北海道(函館)人気」が証明された結果となりました。皆様の記憶に残る全国大会になったのではないかと思います。関係者の皆様、大変ありがとうございました。



## 式典部会

### 大会式典報告

大会実行委員会部会長

工藤 誠 (函館支部)



大会式典は、道南・江差町で古くから歌い継がれている江差追分の全国大会優勝者である菊池勲氏による歌声で幕をあけました。

その後、久高正嗣副会長による開会宣言。高野壽世会長による歓迎の挨拶。国歌斉唱。この一年に逝去された316名の会員の方々を追悼し、黙祷いたしました。

そして、主催者の日本建築士会連合会 三井所清典会長より挨拶。その後、国土交通省大臣官房審議官 淡野博久氏、林野庁北海道森林管理局次長 堂本整氏、北海道

知事 鈴木直道氏、函館市長 工藤壽樹氏、大韓建築士協会副会長 全在佑氏よりご祝辞をいただきました。そして、今大会にお越しいただいた多数の来賓の方々の紹介と祝電披露が行われました。

その後、表彰式が執り行われ、連合会長表彰、伝統的技能者表彰、連合会賞、地域実践活動表彰の各表彰式が執り行われました。

そして、大会アピールの前段を高野会長が、後段を日本建築士会連合会 岡本森廣副会長が声高らかに宣言いたしました。

その後、大会旗が高野会長から三井所会長へ、三井所会長から次期開催地である広島県建築士会・元廣清志会長に引き継がれ、元廣

会長より次期開催地としての挨拶と広島県建築士会の方々による大会アピールが行われました。

最後に鈴木基伸副会長が閉会の挨拶を行い、滞りなく式典の幕を閉じました。

式典が無事に終了できたことはひとえに皆様のおかげと心より感謝申し上げます、報告といたします。



高野会長挨拶



## 記念講演「Between Nature and Architecture」 & お弁当配布・大交流会

大会実行委員会部会長  
小町 美穂 (札幌支部)



### ■ 記念講演

全国大会のお手伝いをする事になり、担当は記念講演となりました。企画書を眺めていると、お弁当配布の文字が・・・プラスαのお弁当配布が紐付けされていました。

記念講演の講師の入り時間が11時、お弁当配布開始時間が11時からで、おもいっきりかぶってる・・・とは言ってもやらなければならないのでマニュアルを作成して常時いなくても良いように段取りし、担当になった方に託し私は記念講演の会場とお弁当配布場所を行ったり来たり結果、大会当日1日で17.1キロ歩いていました。お弁当配布を担当して頂いた恵庭支部・日高支部・檜山支部・函館支部のみなさま、本当にありがとうございました。段取りが終わった後は講師の入り待ち!! 少し

アクシデントがありました。講師も無事会場に入りました。全国大会「北海道大会」での記念講演は、藤本壮介氏をお招きして講演頂きました。藤本氏は2000年の青森県立美術館設計競技2位(優秀賞)受賞を機に建築家としてデビューし2014年フランス・モンペリエ国際設計競技最優秀賞を始め、数々の賞を受賞されました。今回ご縁があり、また、北海道の旭川市近郊の東神楽町の出身ということもあり記念講演をお願いする事となりました。

講演では、藤本氏がこれまで設計した建築作品にふれ自身の建築観をお話頂きました。



記念講演

印象的だったのが、多目的タワー「ラルブル・ブラン(白い木)」でした。構造屋としては、設計を依頼されたくない物件のひとつで、かなり緊張する建物です。その他、複合施設「ミル・アルブル(1000本の樹)」や武蔵野美術大学美術館・図書館など建築家として刺激を受けたお話だと思っています。講演を聴かれた方の中には、藤本さんの地元の東神楽のプロジェクトのお話を注視していきたい、癒やしオーラ全開で癒やされた、などのお声がありました。参加して下さった皆さまには建築家として刺激を持ち帰って頂けると幸いです。



お弁当配布

### ■ 大交流会

全国から1200名の方に参加頂き、司会は、檜山支部の室井さんの発声で盛大に始まりました。長谷川統括理事による開会宣言、大会実行委員長で函館支部長でもある山内支部長からの挨拶、そして朝倉青年委員長から乾杯が行われました。会場はサブアリーナで参加人数を考慮し立食としましたが、会場に入りきれない参加人数となってしまう北海道からの参加者さんにはホールでとってしまいました。おもてなしとして北海道のスタッフが各テーブルについて盛り上げ役となりました。お料理は、北海道函館のご当地名物(塩ラーメン・イカ刺し・ジャガイモなど)、道内産の食材を使用し国際ホテルの協力により厳選された料理でおもてなしをしました。また、函館企業のラッキーピエロ、ハセガワストアにもご協力頂き、ハンバーガーと焼き鳥弁当も楽しんで頂きました。飲み物も北海道限定のサッポロクラシックを始めニッカ竹鶴ピュアモルト、日本酒は国希酒造の国希特別純米

酒、焼酎は北檜山産の喜多里(芋焼酎・麦焼酎)、ソフトドリンクも北海道限定のカツゲン・リボンナポリンを用意して、北海道を楽しんで頂けるようにしました。そして、会場で楽しめる料理・お酒などは会場のスクリーンで放映を行いました。そのあとは、当日の状況を思い返して頂けるように大会の風景(受付・セッション・記念講演・式典の様子)も流しました。終盤は次期開催県の広島県のPRです。広島県のPR映像は来年も全国大会に行きたくなる気持ちをかき立てられる内容でした。そして、沢山の旗と共にステージに登壇された皆さんは赤一色で広島=カープを思い出させました。盛り上がったまま統括理事 中澤



大交流会

支部長の閉会挨拶、広島県での再会を約束した後、最後に函館と言えばやっぱり「イカ踊り」なんです。ステージに函館支部が上がりイカ踊りのスタートです。最高潮に盛り上がりエンディングを迎えました。

大交流会は、17:30からのスタートでしたが、全国から参加頂いた会員さんの接待をするため大会スタッフの方には15:30に集まって頂き準備を始めました。運営側に至らないところが沢山ありましたが、スタッフ皆様のご協力もあり無事スタートし終えることが出来ました。

お手伝い頂いた皆さま本当にありがとうございました。



大交流会

## 出展・展示部会

### 記念展示・企業展示ブース

大会実行委員会部会長  
伊藤 隆英 (恵庭支部)



記念展示は、アリーナ2階ホールと回廊で連合会の①第47回連合会賞入賞作品 ②第9回高校生建築甲子園入賞作品 ③第29回全国女性建築士連絡協議会 ④第62回全国大会（北海道大会）伝統的技能者表彰者のパネルA1、A2版サイズで総枚数75枚を展示しました。

特に、伝統的技能者が北海道から鹿児島までの21名によるパネルA2版42枚は、見入っている参加者が黙っていても、職人技(わざ)が伝わるほどの感動的なパネル展示でした。

また、回廊では北海道建築士会の活動紹介として、今回、初めて事業、まちづくり、青年、情報、ヘリテージ、女性、被災地応急、

地域貢献の8実行委員会によるパネルA1、A2版サイズで総枚数15枚を展示しました。このことにより、全国の多くの参加者に北海道建築士会の活動を伝えることができました。

企業展示ブースは、1階メインアリーナ回廊を左右に分けて、その特性を活かした動線により展示ブースをそれぞれに配置しました。

また、今回はブース巾を4.6mと広めにとりまして、企業出展社は①建材関係が11社、②BIM、ソフト関係が7社、③資格関係が2



記念展示

社、④その他6社の計26社26コマのブースに各社がそれぞれに工夫を凝らしたレイアウトで多くの参加者に自社のアピール活動を展開していました。

特に、毎年、出展しているクマリフトのブースは、「くま」のキャラクター入りトートバックが貰えることから大人気！のブースとなっていました。

今回、毎年、本道士会活動に並々ならぬご支援とご協力を頂戴しております、東西アスファルト事業協同組合様にもご出展いただきました。



企業展示ブース

## 広報・記念誌部会

### 案内看板・記念冊子・号外発行

大会実行委員会部会長  
斎藤 勝哉 (旭川支部)



我々が担当しました広報・記念誌部会の主だった役割としましては、記念冊子の作成、各種看板等の制作と広報、当日には、大会記録としての各所の写真撮影及び、全道大会と同様に号外を発行するという事でした。

役割の大半は開催の一カ月程度前には終えてなくてはいけない事ばかりでしたので、他の部会とは異なる時間配分が必要でした。

誘致ポスターから、各種看板、記念冊子に至るまで全てのイメージを統一させるべく協力いただいた函館デザイン協議会の方とも何度も意見交換ができ、大変頼もしく感じました。この時点で制作物については『非常に良いものになる！』と確信出来ました。

特筆すべきは、入口メインサインでしょうか。表裏両側の出入りに W3300×H2400×D900の自

立式の看板で、イメージロゴを道南スギ（道南スギ産地形成推進協議会様・はこだて森林認証推進協議会様提供）で象った非常に凝った作りで、参加者の皆さんはこぞって記念撮影をしていました。

前回の埼玉大会での冊子を手本として計画された記念冊子は全国大会参加経験豊富なメンバーの意見を取り込み、又、過去の大会で印象的だった記載等を織り込み完成しました。

直前の内閣改造で来賓の変更があり、修正を函館支部にお任せしてしまったことは心苦しいのですが、これも良いものできたと思えました。

私が実行委員会に参加し、初めて出た会議終了後、山内実行委員長が神妙な顔で「折り入ってお願いがある」との話で『号外』発行の希望を伝えられました。正直なところ負担が大きすぎると思っていたので断ろうと考えていましたが、あまりの熱意と意気込みに負け、承諾したのを覚えております。

最大の懸念は入稿後数時間で千部超の印刷の対応をしてくれる印刷会社があるのか？ということでした。結局、プリンターを持ち込むことで対応せざるを得なかったのですが、これはこれで他にもメリットがありました。

当日の編集作業はと言うと…実は必死過ぎてあまり記憶にありません。ただただ、達成感とかなりの疲労感を覚えているのみでした。短い時間の中、メンバー全員頑張ってくれた情報委員会渾身の号外を発行できたのでは？と思っています。HPに記念冊子とともに掲載していますので是非ご覧いただきたいと思えます。



入口メインサイン前で

交流セッション

大会実行副委員長  
針ヶ谷 拓己 (札幌支部)



大会実行副委員長  
本間 恵美 (小樽支部)



建築士が担っている社会的役割に対する意識の高揚を図るとともに、建築士会会員相互の情報交流を深めることを目的に8つの交流セッションが開催されました。以降、概要報告をいたします。

①青年委員会セッション 参加 298名

「地域実践活動発表会」

全国7ブロックの代表者が、青年建築士の優れた地域実践活動を発表し、参加者による投票が行われました。最優秀賞は中四国ブロック（高知県建築士会）、優秀賞は九州ブロック（長崎県建築士会）。なお、北海道ブロックは朝倉青年委員長が「青年建築士の集いin厚真町」の活動を発表し、奨励賞を受賞しました。



②女性委員会セッション 参加 101名

「和の空間の魅力を探る…ふたたび」

「魅力ある和の空間ガイドブックWEB版」掲載建物について、北海道、青森県、福岡県、広島県の4地域のパネリストから、それぞれの地域の建物の和の空間の魅力が報告されました。後半は①和の空間の魅力②和の空間の活用③魅力ある和の空間を持つ建物と和の空間の波及についてディスカッションしました。北海道からは、函館支部の岩崎美乃さんが旧相馬邸の魅力的な和の意匠と、実践事例として、古民家調を意識した現代の和室を紹介しました。



③景観・街中まちづくりセッション 参加 188名

「空き家等の適正管理と利活用による景観の向上」

空き家の放置が悪影響を与えてい

る現状から「空き家の適切な維持管理」「流通」「除却後の景観」について、建築士(会)として何ができるか議論されました。前半に行われた先進事例報告では、後志支部の榊支部長より「しりべし空き家BANKのしくみと活動」について報告されました。



④福祉まちづくりセッション 参加 63名

「全国の観光バリアフリーと建築士について」

観光バリアフリーのハード整備とソフト対応のわかる建築士の育成と、バリアフリーの観光地、地域づくりにおける建築士の役割について、観光庁の方をお招きし、議論されました。事例報告では、札幌支部の松本純さんより、『野幌高校への出前講座バリアフリーなまちづくり』『理学療法士・作業療法士との異業種交流会』について報告されました。

⑤防災まちづくりセッション 参加 104名

「事前防災活動指針や風水害復旧マニュアルのRe+」

すでに連合会HPに掲載済みの「事前防災活動指針」「風水害復旧マニュアル」について、その内容をさらに更新・拡充することを目的に開催されました。事例報告では『応急木造仮設住宅』『仮設住宅の配置計画』『豪雨災害時の取組み』について、和歌山県・徳島県・愛媛県建築士会より報告され、その後の意見交換では、大切なことは行政や地域



最後に、交流セッションの準備から当日の運営に携わっていただいた実行委員とスタッフの皆さまのおかげをもちまして、各セッションを滞りなく開催できましたことに感謝し、針ヶ谷、本間より紙面を通してお礼申し上げます。

との「普段付き合い」であるとまとめられました。

⑥環境部会セッション 参加 43名

「SDGsの環境まちづくりにむけて」

持続可能な開発目標（SDGs）として、国連により2015年に合意された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の目標年は、2030年と定められています。SDGsのまちづくりに取り組んでいる、長野県信州大学の高木直樹氏、北海道からは、下川町の、しもかわ森林未来研究所の春日隆司氏とニセコ町役場山本契太氏より取り組みが報告されました。後半は、3氏と会場も加わっての意見交換が行われました。

⑦情報部会セッション 参加 50名

「建築士とAI（人口知能）との付き合い方」

建築士業務における人材不足は、さまざまなところで問題となっています。近年AIは、身近なところでの活用が、多くの分野で見られるようになってきました。人材不足解消にAIは有効であるか。AIの基本知識を学び、デバイス活用例等が紹介されました。参加者全員とのディスカッションをとおして、これからの建築士のありかたを考えました。

⑧歴史まちづくりセッション 参加 202名

「歴史的建物を使い続ける」

本セッションは、第7回ヘリテージマネージャー大会を兼ねて開催されました。事例報告では『稚内の歴史的建築物 富田伸司氏（道北）』『中標津伝成館 佐々木優氏・東田秀美氏（道東）』『帯広・重文指定 旧双葉幼稚園 川村善規氏（道東）』『函館西部地区 富樫雅行氏（道南）』の発表が行われ、その後、歴史的建物の活用について意見交換が行われました。



エクスカーション部会（地域交流見学会）

エクスカーションA・B・Cコース

函館の歴史的建造物街並見学・函館の重要文化財見学・函館の近代建築見学

大会実行副委員長

中澤 篤（函館支部）



Aコースの「函館の歴史的建造物街並見学」は、オーソドックスな函館観光でもお馴染みのコースで、歴史的な建物をボランティアガイド「一會の会」メンバーが案内するまち歩きでした。拠点となる函館市地域交流まちづくりセンターを集合場所に選び、函館支部のメンバーが引率する形とし、所要時間は3時間、日頃から鍛えているか健脚がカギとなる坂道まち歩きでした。昼食は、函館支部会員が作製したグルメマップを渡し、興味のある方は午後からもゆっくりと見学できるよう配慮したコースでした。

Bコースの「函館の重要文化財

見学」は貸し切りバス8時間の函館駅発着コースで、耐震改修工事中の遺愛学院（旧遺愛女学校）や旧函館区公会堂を工事施工者の高橋組、工事監理の文化財保存協会、函館市文化財課、同建築課の皆様方のご協力を得て実現しました。日本初のコンクリート寺院で木造と区別がつかない程の意匠・細工の東本願寺函館別院は特に印象が強かったものと思います。ガイド役で同乗した函館市建築職OB（元部長、元課長さんでした。恐縮しました。）の丁寧な案内に皆さん満足していて、函館駅で下車し、来年、広島での再会を約束して、それぞれの帰路につきました。Cコースの「函館の近代建築見学」は、函館の街づくりは、大火で焼失した街の再生によると言われています。昭和9年3月の函館大火で焼けた「銀座通り」の焼け残った耐火建築物を再生し、使用

し続けている姿を見て回りました。通り両側に防火線が指定され耐火建築物の建築に補助金を出し「燃えない都市」をつくったものです。

また、大交流会後に企画した「函館夜景バスツアー」は大好評で、約280名の参加者で貸切バス8台となりました。この日は、最高の天候に恵まれ、函館山からの夜景は津軽海峡に漁火も灯り最高でした。バスの中はほろ酔い状態もあり、終始和やかで楽しいひと時を過ごしていただいたようです。

結果、どのコースも函館らしさを満喫していただいたように思っています。お手伝いいただいた担当者の皆様、大変ありがとうございました。企画・運営した支部会員も改めて函館の良さを再認識できた大会でありました。「一會の会」はじめ関係した皆様、大変ご苦勞様でした。

エクスカーションDコース

日本遺産「江差いにしえ街道」散策

大会運営スタッフ

大古 正平（檜山支部）



J R函館駅をバスで参加者49名、檜山支部佐藤支部長と私が添乗し、別車輜で檜山支部5名が付き添い、出発しました。函館市街地を過ぎ、一路厚沢町町経由江差町へ。日本一小さいえさし道の駅ではトンチで知られた繁次郎の銅像や大学生企画コンペを基に檜山支部で改修を担当した売店を見学後、幕末の軍艦を実物大に復元した、えさし海の駅「開陽丸」を見学、艦内には海底から引き揚げた遺物が約3000点が展示されています。江差追分会館では第1回から昨年までの名人56名の写真額や併設の山車会館では姥神大神宮渡御祭に参加する2台の山車（やま）の展示と370年以上続く渡御行列の映像を見ました。昼食後日本遺産の核である、江差いにしえ街道にある国の重要文化財旧中村家を見学後、室谷江差いにしえ資源研究会長さんより姥神大神宮までの約400m程を建物、場所の謂われ等（旧檜山爾志(にし)郡役所、江差町会所会館前に大正9年設置された国道5本の起終点を示す江差町道路元標、幕末の旅籠の手水石等など）説明を受けながら散策しました。最後に江差文化会館で第57回江差追分全国大会決勝の部を見学、少年の部優勝者が秋田県の方でコースに参加した秋田県の方は大変喜んでいました。檜山支部では参加者にヒバ(檜あすなろ)材に漆で江差追分の歌詞を書いた特製靴べらを記念品として寄贈しました。

エクスカーションEコース

縄文遺跡とニセコ・小樽の街並見学

大会実行委員会部会長

清水 浩史（札幌支部）



Eコースは、函館から札幌まで、約330kmを10時間かけてバスで巡る、北海道の広さを感じられるコースでした。

函館駅前を朝8時に出発し、まず「函館市縄文文化交流文化センター」。参加者は、道内唯一の国宝である中空土偶などの展示物はもちろん、公共建築賞を受賞した建築物も興味深く見学していました。

その後、八雲パノラマパーク、道の駅ニセココンピュータで休憩をとりながら余市町へ向かい、「ニッカウキスキー余市蒸溜所」を見学しました。ここでは、趣ある場内施設の見学を少々と、参加者が一番楽しみにしていたであろう、ウイスキーなどの試飲！とても楽しんでいただきました。

その後は小樽へ向かい、歴史的建造物や手宮線跡、小樽運河など、地元のボランティアガイドの方々案内いただきました。

その後、札幌道を経由し、ほぼ定刻に札幌駅に到着。参加いただいた皆様が笑顔で降車される姿を見ながら、ほっと胸をなで下ろしました。

途中、高速道路の通行止などのトラブルに見舞われましたが、伴走車との連携プレーもあり、無事に盛況に終わることができました。これも、スタッフの皆様、各地でご協力いただいた皆様のおかげです。ありがとうございました。

第62回建築士会全国大会「北海道大会」参加申込\_参加者人数

大会参加人数	記念講演	大会式典	セッション								
			青年	女性	景・街	福祉	防災	環境	情報	歴・ヘリ	
2,926	1,683	2,583	298	101	188	63	104	43	50	202	
大交流会	昼食	夜景バス	エクスカーション								
			A	B	C	D	E				
1,253	699	283	142	97	73	51	88				

## 第8回全国ヘリテージマネージャーネットワーク協議会

大会実行委員会部会長  
関川 修司 (北広島支部)



9月21日全国大会に先立つ20日に全国ヘリテージマネージャーネットワーク協議会が函館市金森ホールで開かれた。ここは歴史的遺産である元倉庫である。

まず初めに、ヘリテージ専門職育成講座で講師を務めている花岡氏の「商いと大火」と題して函館の建物を通覧したセミナーが行われ、西部地区を“街歩き”。協議会総会は、後藤治委員長の挨拶に続き、報告事項2件。協議事項2件。協議会 新役員 役員の選出があり、懇親会に入る。

会場テーブルの席札は、北海道独自の建物の写真(屯田兵屋、屯田中隊本部、駅通所、鯨番屋、炭鉱鉦坑、人造石油(株)、タタミ蔵、

網走監獄博物館、函館奉行所、そして厚真町庁舎、網走郷土博物館、網走聖徳神社、亀田八幡宮、函館公会堂、小樽有幌倉庫街、中標津ハリストス教会とキリスト像、厚真ジンギスカン)である。NPO法人函館街中プロジェクトの方々の応援もあり、席札の写真の説明を聞かれたりと和気藹々とした中、終宴した。

翌日9月21日全国大会である。歴史まちづくりセッションの会場は、函館アリーナに程近い湯川温泉街の花びしホテル2階芙蓉の間で行われた。テーマは「歴史的建築を使い続ける」。

道内4地区から。地元函館(道南)から函館西部地区で数多くリノベーションを行っている士会函館支部会員の合同会社富樫雅行建築設計事務所(北海道ヘリテージマネジメント専門職育成講座2期生)。道北からは、旧海軍大湊通

信隊稚内分遣隊幕別送信所「稚内赤れんが通信所」の保全利用真最中の稚内市歴史・まち研究会長で士会宗谷支部賛助会員富田伸司氏。道東からは旧北海道農事試験場根室支場であった「中標津伝成館の保存活動からまちづくりへ」と題した士会中標津支部長佐々木優氏・北海道ヘリテージコーディネーター東田秀美氏。そして帯広から重文指定の旧双葉幼稚園についてNPO法人双葉の露川村善規氏(士会十勝支部、北海道ヘリテージマネジメント専門職育成講座1期生)の4組がその事例発表を行った。ヘリテージマネージャーネットワーク協議会、歴史まちづくりセッションは大いに成功したと思っているのは、私一人であろうか。双方とも、発表者への質問で、なかなか部屋を空けてくれなかった。



全国ヘリテージマネージャーネットワーク新運営委員会



歴史まちづくりセッション会場

## 第10回全国建築士フォーラム

大会実行委員会部会委員  
末吉 勇介 (函館支部)



第10回目の節目となる全国建築士フォーラムが9月20日北海道函館の地で開催されました。テーマは「未来を切り開く情報発信能力の向上を！」～青年建築士式函館路面電車の旅と題し、参加者が楽しみながら函館の街の特色のひとつである路面電車旅をしながら、建築士の目線で新たな街の魅力を発見、SNS投稿による情報発信の向上を目指し、そして建築士会のさらなる発展を趣旨に行われました。

前半はSNSを用いたフィールドワーク、後半はFacebook起業女子プロジェクト北海道地区担当トレーナーであるTolikeの竹村真奈美様をお招きしてのワークショップを行いました。

フィールドワークでは、Facebookグループページという1つのフィールドに参加者全体が焦点を向けられ、建築士ならではの投稿、皆を楽ませてもらえる投稿がUPされており、私自身もSNSの発信力

の高さに非常に勉強になりました。またワークショップでは、実際の投稿内容の事例紹介、SNSの変遷や、ビジネスツールとしてのSNSの活用方法もあり、現代の情報発信能力の向上が不可欠であることを改めて感じました。

交流会では214名の参加があり、北海道の地域性を出してマグロの解体ショーも行い、全国の同じ世代の青年建築士と交流ができて大変盛り上がりしました。

今回は地元、北海道大会・函館会場開催という中でフィールドワーク+ワークショップの過密な事業スケジュールであったため、函館メンバーだけでは人数が足りず、無理を言って多くの全道青年委員の方々の協力をいただきました。

細部まで連合会の運営を手伝って下さった北海道建築士会青年委員会の役員の皆様、人数把握や各支部を何回も調整して下さった各ブロック長の皆様、函館から近いということで負担をかけてしまった道南ブロック青年委員の皆様、そして役員でも無いのに積極的に手伝ってくださりました各支部青年委員の皆様、地元としてたくさん動いていただいた函館支部青年

委員の皆様、最後に地元開催で役割が多い中、皆様をまとめてくれた朝倉青年委員長。大会の成功は、北海道建築士会青年委員会が丸となって取り組めたことだと思っています。ここに挙げたら書ききれないくらいに感謝でいっぱいです。そして北海道の多くの青年委員メンバーは手伝い、運営等でフォーラムを十分に楽しめなかったと思います。しかし全国大会という雰囲気を感じ、同じ時間を過ごし、同じような悩みを持った全国の青年建築士と交流できた事は、私を含め大変いい経験になったと思っています。

今後また来年、再来年と違う開催地で青年フォーラムが開催されます。今回の大会を通じ北海道青年委員の方々が今後一人でも多く各地全国大会へ行き、全国建築士フォーラムの参加をして下さり、また全国の方と交流したいと思っています。最後になりますが、皆様大変お疲れ様でした。そしてありがとうございます。

#皆様に感謝！です。

## 道士会の動き

### 道本部の主な会議報告 (11月)

- ◆第3回青年委員会  
〈開催日〉11月9日(土)  
〈議 題〉1) 令和元年事業報告 他
- ◆第3回BIM推進特別委員会  
〈開催日〉11月12日(火)  
〈議 題〉1) BIMの事例紹介
- ◆第3回総務委員会  
〈開催日〉11月16日(土)  
〈議 題〉1) 令和元年第4回理事会議案等 他
- ◆第14回全国大会実行委員会  
〈開催日〉11月16日(土)  
〈議 題〉1) 全国大会収支決算見込み
- ◆第4回地域貢献活動センター委員会  
〈開催日〉11月21日(木)  
〈議 題〉1) 「北海道建築士会地域貢献活動基金」の運用及び助成対象事業決定に関する要項の見直し
- ◆第3回事業委員会  
〈開催日〉11月21日(木)  
〈議 題〉1) 令和元年事業報告(10月末)及び収支決算見込み 他
- ◆第3回女性委員会  
〈開催日〉11月23日(土)  
〈議 題〉1) 令和元年事業報告及び収支状況報告 他
- ◆第2回まちづくり委員会  
〈開催日〉11月23日(土)  
〈議 題〉1) 令和元年事業報告、令和2年事業計画・予算案 他
- ◆四役会議  
〈開催日〉11月28日(木)  
〈議 題〉1) 第4回理事会について
- ◆第2回情報委員会  
〈開催日〉11月30日(土)  
〈議 題〉1) 令和元年決算及び事業報告 他

### 道本部の主な行事予定 (12月)

- 6日(金) 第4回理事会
- 7日(土) 防災セミナー「胆振東部地震のその後」

## 講習会のご案内 (12月)

### 監理技術者講習

18日(水) 札幌市

### 応急危険度判定士認定講習会

9日(月) 倶知安町

## 編集後記

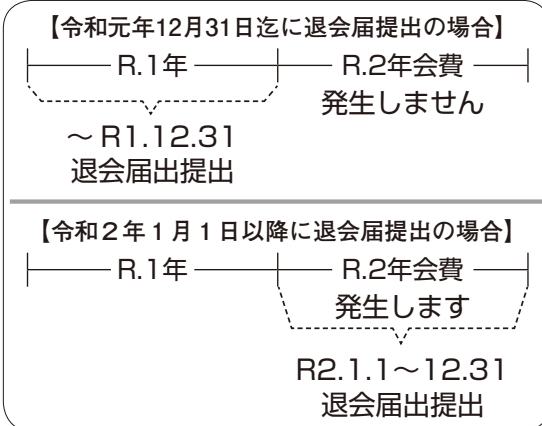
早いもので今年最終号となりました。会員の皆様におかれましては本年も多忙に過ごされたものと存じます。

さて、今号は東西アスファルト事業協同組合様の助成を頂き、いつもより6ページ拡大して合計14ページの全国大会特集号となりました。おかげ様で、写真も内容も多数掲載することができました。参加いただけなかった皆様に大会の雰囲気伝わればと思っています。

少しでも興味を持っていただけたならば、ぜひ参加してほしいですね。世界が広がること請け合いです！

情報委員長 斎藤 勝哉

## 令和2年会費関係スケジュール



令和2年会費請求を11月中旬に郵送いたしました。本会の会費は、年会費(1月～12月)の一括納付(会費規則第2条1項)令和2年3月31日迄となっております。年の途中で退会された場合でも1年分の会費が発生いたします。都合によりやむを得ず退会される場合、12月31日迄に退会届を所属支部へご提出をお願いいたします。※会費の滞納が続きますと会誌の発行、会員としての特典が停止されます。

【お問合せ先】(一社)北海道建築士会 TEL 011-251-6076

## 令和2年専攻建築士登録申請受付のご案内

### ？ 専攻建築士になるには・・・(新規認定の要件)

- ・「CPD」を行っており、過去1年間(平成31年1月～令和2年12月)に12単位を取得している
- ・建築士資格取得後の専攻領域の実務経歴年数が5年以上ある
- ・「当該領域の責任ある立場での実務実績」(要第三者による証明)が3件以上ある
- ※構造設計・法令専攻建築士は、一級建築士を要件としております。

### ◆専攻建築士認定申請について

- 〈受付期間〉令和2年1月6日～2月28日(当日消印有効)
- 〈申請書〉北海道建築士会HPよりダウンロードできます。
- 〈申込〉申請手数料(審査手数料・登録料)の振込控えを申請書に添付し北海道建築士会へお申込みください。

### ◆専攻建築士更新認定申請について

既に、対象のみなさまへは、更新申請についての案内を送付しております。該当の方で届いていない方がいらっしゃいましたら本部事務局までご連絡ください。(011-251-6076)

情報委員会委員長/斎藤 勝哉  
副委員長/早川 陽子・森 勝利・前田 繁  
委員/熊谷 智・柏倉 晶憲  
村山 賢司・片岡 哲二

### 北海道建築士 No.268号

印刷 令和元年11月/発行 令和元年12月

編集・発行 一般社団法人 北海道建築士会  
〒060-0042 札幌市中央区大通西5丁目11番地  
大五ビル  
電話 (011)251-6076番  
URL <http://www.h-ab.com/>

印刷 株式会社 正文舎  
〒003-0802 札幌市白石区菊水2条1丁目  
電話 (011)811-7151番